

研究主題 「『確かな学び』のある総合的な学習の時間の在り方

- 自己の成長を自覚化させる指導の工夫・国語科との関連を通して -

東京都教職員研修センター研修部専門研修課
 足立区立花保小学校 教諭 向山 敦子

I 研究主題設定の理由

総合的な学習の時間は、各教科等で身に付けた資質や能力との関連付け、深化・総合化の視点を明確化するとともに、総合的な学習の時間での学びが、各教科等の学習への意欲につながることを目指して、計画的な指導、学年間・学校間・学校段階間の連携を図ることが求められている。

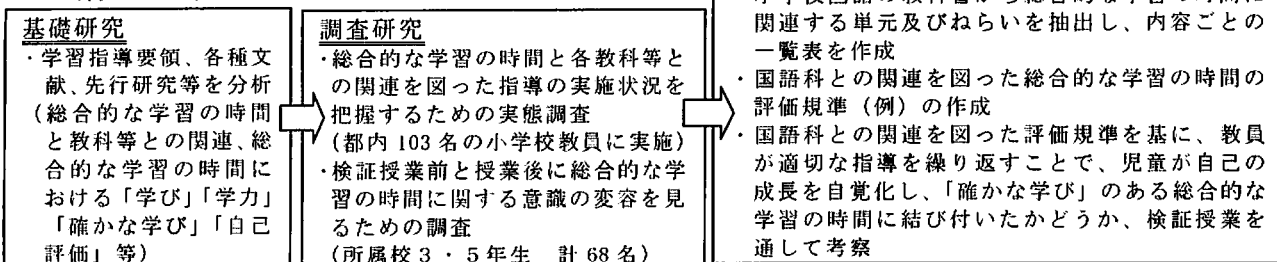
しかしながら、総合的な学習の時間の調べ学習で、「大切なところだけをまとめなさい。」「分かりやすく発表しよう。」などと、どの学年の児童にも同じような指導が行われていることが見受けられる。

この背景には、これまでの総合的な学習の時間の指導において、教員が児童にどのような活動をさせるかに重点を置き、課題を解決させるための指導は行っても、児童に身に付けさせたい力を明確にせず、必要かつ適切な指導を実施していないことがあると考えた。

児童が次の課題に意欲的に取り組むためには、これまで学んだ学習内容が、当面する課題解決に役立つことを実感することが大切である。活動によってできるようになったことや考えが広がったことなどの自己の成長に気付き、これまで学んだことが生かされたことを実感できれば、次の課題解決への意欲につながる。このような流れのある学習こそが、「確かな学び」であると考えた。この「確かな学び」のある学習には、教員が学年の各教科等における児童の学習経験と総合的な学習の時間のねらいとの関連を明確にした、発展的・系統的な指導をしていくことが大切であると考えた。

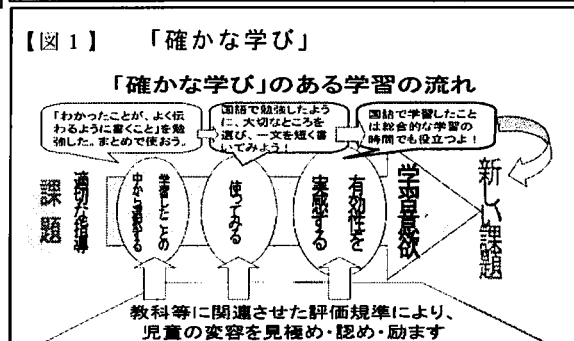
そこで本研究では、特に総合的な学習の時間における調べ学習において、学んだことを生かすことが実感しやすい国語科との関連を明確にし、自己の成長を自覚化させるための具体的な方法を明らかにしていくことをねらいとし、総合的な学習の時間のカリキュラム開発を行うこととして、上記の研究主題を設定した。

II 研究の内容と方法



1 「確かな学び」について

市川伸一（2004,「学ぶ意欲とスキルを育てる」）は、「知識は、頭の中に内蔵されているからこそ有効に使える」と指摘するとともに、「知識を大切にしながら、それを子どもにただ蓄えさせるのではなく、活用させて学習活動を組み立てていくというこ



ところが、これからの授業で考えるべき大きな問題になる」と述べている。このことを踏まえ、総合的な学習の時間において「確かな学び」を成立させるためには、自己の成長に気付き、自信を付ける。そして、また別の課題にも生かしてみよう、と考えるようになることが最も大切であると考えた。【図1】

2 調査研究

総合的な学習の時間と各教科等との関連を図った指導の実施状況を把握するため、アンケート調査を実施した（7月下旬、都内103名の公立小学校教員）。その結果、90%以上の教員が総合的な学習の時間において、国語科の「発表すること」「まとめること」を関連させて指導していると回答したが、「国語科と関連させて総合的な学習の時間の学習指導計画を作成し、十分に指導している」と回答した教員はわずか18%にとどまった。このことから、「発表やまとめは、国語科と関連させている」と考えているが、実際には計画的な指導が十分行われていないことが明らかになった。

3 実践研究

本研究では、「確かな学び」のある総合的な学習の時間にするため、「国語科との関連を図った評価規準の作成」「自己の成長を自覚化させるための自己評価」「自己の成長を自覚化させるための教員の言葉かけ」の三点に焦点を当て、研究仮説を以下のように立て、研究を進めることとした。

【研究仮説】総合的な学習の時間と国語科で身に付ける力との関連を明らかにし、国語科との関連を図った評価規準による教員の適切な指導を繰り返し行い、自己の成長を自覚化させることができれば、「確かな学び」のある総合的な学習の時間が可能になるであろう。

Ⅲ 研究の成果と考察

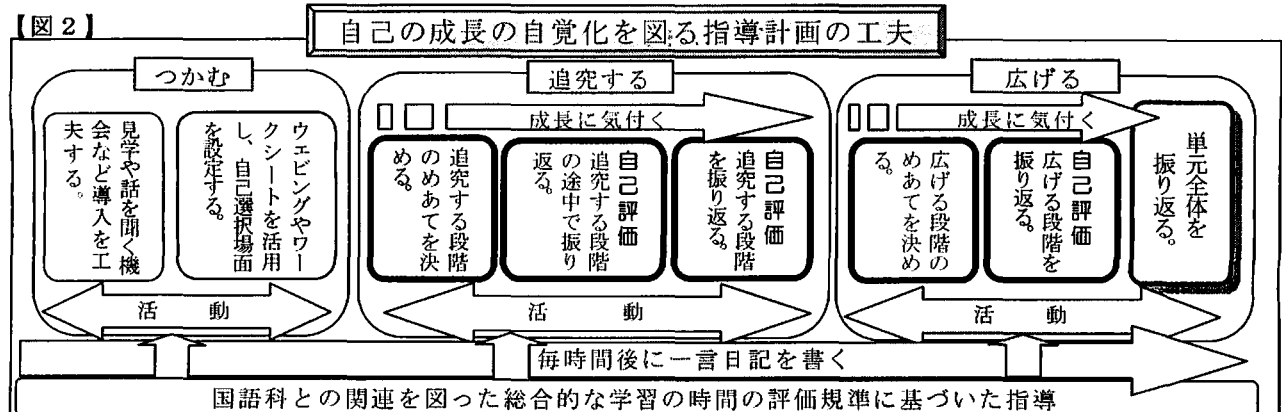
1 自己の成長を自覚化させるための手だて

(1) 国語科との関連を図った評価規準の作成

「確かな学び」のある総合的な学習の時間にするためには、教員が評価の観点を明確にし、総合的な学習の時間の学習内容と国語科との関連を図ることが必要だと考えた。そのために、まず、学習指導要領から、総合的な学習の時間にもかかわる国語科のねらいを抽出した。次に、小学校国語の教科書から、総合的な学習の時間に関連する単元及びねらいを選択し、内容ごとに並べかえまとめた。それらを基に、「国語科との関連を図った総合的な学習の時間の評価規準（例）」を作成した。これらの表を参考にする、総合的な学習の時間で国語科と関連させることができる具体的な内容が明らかになり、学校の総合的な学習の時間の評価規準に組み入れて使用することで、総合的な学習の時間と国語科で身に付ける力との関連が明らかになり、指導の際に活用することができた。

(2) 指導計画の工夫

総合的な学習の時間第3学年「この町大好き！花保たんけんたい」及び第5学年『食』について考えよう！の単元において上記の仮説を検証することとし、次のように手だてや工夫を取り入れ、検証授業を行った。【図2】



- ① 自己選択場面の設定・・・つかむ段階での活動の工夫やウェビング、ワークシートの活用により、児童が興味・関心をもった課題を自ら設定し、自分で考えて活動することができるようにした。
- ② 振り返りの視点「めあて」を立てる・・・追究する段階・広げる段階の始めに、国語科で学習したことを意識しながらめあてを立て、児童が活動するために分かりやすい指標とした。自己評価を行う時には、今までの活動を振り返り、始めに立てためあてに沿って行うことができるようにした。
- ③ ワークシートや「一言日記」、自己評価・・・見通しをもって活動を進めることができるようにした。
- ④ 単元全体の振り返り・・・児童が自己の成長を改めて実感するだけでなく、自分の考えを広げていくことができるようにした。

(3) 効果的な自己評価の方法

児童が自己の成長を自覚化するための自己評価を行うには、児童が明確な振り返りの視点を持ち、自己評価を積み重ねていくことが必要であると考えた。そこで、単元全体を通して、日々の自分の活動のめあてに対して行う、自由記述式の「一言日記」を実施した。「一言日記」には、毎回教員が国語科との関連を図った総合的な学習の時間の評価規準に基づいて言葉を書き込んだ。それにより、児童は自信をもって学習を進めることができ、自己の成長に気付くことができた。さらに、追究する段階・広げる段階の始めに、「国語科で学習したことを意識しながら立てためあて」に対する「自己評価」を行うことにした。児童はめあてを達成したかどうかを4件法で記入する。その際、理由を自由記述で書かせた。自己評価を行う時には、蓄積してきた「一言日記」や作品、ワークシート、教員からのコメントや友達からのメッセージカードなど、成長が分かるものを通して振り返り、自己の成長を自覚化させた。【図2】

(4) 効果的な教員の言葉かけ

児童が主体的に自己の成長を自覚化するためには、一人一人の児童が自ら、自己の成長に気付くことが大切である。

児童が国語科で学んだことが役立つことを実感し、自信を付け、自己の成長やよさに気付くために、右記【表1】

児童が自己の成長を自覚化するための教員の言葉かけ【表1】	
○明確化：児童が無意識でやっていることに対して、教員が問いかけることにより、児童自身にやっていることに対しての意図を意識させる。	(問いかけ)・どうして、小見出しをつけたの?・線を引いているのはどうして? (明確化)・「」を使ったんだね。どう思う?・今までの発表と比べるとどう違う?
○確認：明確化によりはっきりさせたことを、もう一度繰り返し、言葉かけすることで活動の価値を理解させる。	(受容)・そうだね。そうすると、大切なところがよく分かるね。 (確認)・伝えたいところを選んで書くために線を引いているんだね。 (意味づけ)・国語で学習したことを総合的な学習の時間に使うことができたね。

参考文献：『教育相談の心理ハンドブック』中山 巖 編著 北大路書房
 ・『カウンセリング入門』田畑 治 著 新緑社

のような「児童が自己の成長を自覚化する

ための教員の言葉かけ」を行うことにした。その際、教員は児童が学んだことを生かしている場面を見極め、児童に的確に言葉かけを繰り返し行うようにした。

2 検証の結果

自分の成長を実感した 5年A児 の変容

児童の様子	教員の指導
『まとめるときは大事などころだけをやっけい、自分の伝えたいことや書きたいことを書けるようになったから前と比べてアップしたと思う。前の自分と比べて、人に頼らず、自分のめあてを忘れずまとめることができるようになった。』 (自己評価：追究する段階を振り返る)	「自分でできるようになってきたことが実感できたんですね。」(確認：受容)
『前の自分と比べて、発表原稿を作り、付せんもはって工夫し、聞いている人にわかってもらうように話し始めを工夫して発表できたから、すごく成長したと思う。』 (自己評価：広げる段階を振り返る)	「国語『放送原稿を書こう』で学習したことを使いながら作文にまとめられたので、すごく成長を感じたんですね。書き出しを工夫したので、聞き手をひき付けることができましたね。発表原稿では、接続詞を使いましたね。国語の学習が役立ちましたね。」(確認：意味付け)
題：総合のことを考える自分 『～略～ 調べたことをそのまま写すのではなく、自分の考えも入れて聞いている人がわかるような工夫をした。今までの自分を振り返ってみたら、すごく成長したことがわかる。どんなところが成長したのかも考えられるようになった。みんなの発表を聞いて、「食」についての～略～』 (単元全体を振り返る：まとめの作文)	「国語で学習したことをどんどん使って、この学習でぐんと成長しましたね。自分の成長に気付くことは素晴らしいですね。」(確認：意味付け)

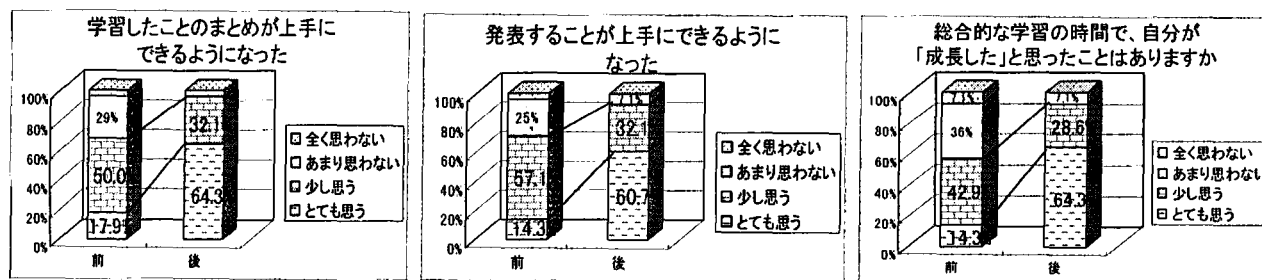
A児の考察

いつも丁寧にまとめ、堂々と発表していたA児。今回、国語で学習したことが総合的な学習の時間に使えることを改めて認識し、必要なところに線を引き、選んでまとめたり、国語で学習したことを生かして、発表原稿を作ったりした。そして、学習してきたことを実際に使ってみてそのよさに気付いた。その結果、今までの自分と比べ、成長していると実感することができ、「一言日記」、自己評価の自由記述やまとめの作文にその思いを表した。国語科と関連させてめあてを立てたこと、「一言日記」や自己評価で活動を振り返ったこと、教員が意図的に言葉かけたことなどで、A児は自己の成長を自覚化することができた。また、自己の成長を自覚化することで、「確かな学び」が確認でき、追究する段階・広げる段階ともに内容を自ら深めていく総合的な学習の時間となった。

3 全体の考察

- (1) 国語科との関連を図った評価規準を基にした教員の意図的な言葉かけは、児童にとって具体的なアドバイスとなり、児童が主体的に活動を進め、自信をもつことにつながった。
- (2) 「一言日記」を書くことで、児童は自分の活動を振り返り、自分のよさやがんばりに気づき、自己の成長に気付くことができた。
- (3) 国語科で学んだことを意識してめあてを立てたことは、児童が活動する上で分かりやすい指標となった。また、そのめあてに対して自分自身を振り返り、自己評価することで、自己の成長を自覚化することができた。
- (4) 単元全体を振り返ってまとめの作文を書くことで、児童は自己の成長を改めて実感し、自分の考えを広げることができた。
- (5) 国語科との関連を意識させ、自己の成長を自覚化させたことは、総合的な学習の時間全体の主体的な学びにつながった。

(検証授業前後の児童の意識の変容：所属校5年児童28名)【図3】



検証授業前後の児童の意識の変容からも、このカリキュラムを通して自己の成長を自覚化させるための手だてが有効であることが実証された。【図3】

以上のことから、「確かな学び」のある総合的な学習の時間を展開するための一つの方策として、国語科との関連を図った総合的な学習の時間の指導計画に基づき、児童がめあてに沿って活動を振り返り自己評価をすること、並びに児童に自己の成長を自覚化させるため、教員が意図的に言葉かけすることは、有効であることが分かった。

IV 研究のまとめ

1 本研究での成果

- (1) 国語科との関連を図った総合的な学習の時間の評価規準を基に、教員が評価の観点を明確にして指導を行うことで、児童は自己の成長を自覚化することができ、「確かな学び」のある総合的な学習の時間を展開することができた。
- (2) 「確かな学び」に導くための自己評価の方法を明らかにすることができた。

2 今後の課題

国語科だけでなく、他の教科等と総合的な学習の時間との関連を図り、他の教科等で学んだことを総合的な学習の時間で活用できるようにしていく。